

## 教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒  
明るく思いやりのある生徒  
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第36号

平成30年 3月15日発行

須賀川市立第二中学校

☎75-2910

発行責任者：校長 高崎則行

# 参加者の心に届く歌声を はなむけに心に灯る言葉を



3月13日(火)、明るい日差しが降り注ぐ、真に佳き日に第70回卒業証書授与式を体育館で挙行了しました。



今、あらためて「うちの子どもたちを見てください。」と言いたい気分です。前号(第35号)で期待をあおった式歌の出来映えを表現できるだけの筆の力がないので、来賓の方の言葉で紹介ししますと「学校だよりの言葉どおり、第一小節から声が出て、期待に違わぬ式歌だった。」



という感想をいただきました。入退場の音楽も吹奏楽部の生演奏です。歌声も器楽演奏も本物の力を発揮しました。



また、来賓祝辞では、市議会議員 本田勝善様から「生まれ育った須賀川市に誇りを持ち、自分らしく希望をもって前に進んでください。」と、本校PTA会長 志波謙一様から「若者は可能性という財産をもっている。それを使うことでさらに可能性は大きくなる。」という励ましの言葉をいただきました。私からは、「いつまでも夢や希望をもち続けてほしい。」との願いを述べました。



これらの言葉が、卒業生の心の中で光を灯してくれれば嬉しいです。

なお、この紙面には、この日の第3学年担当の表情をちりばめてみました。学年主任や担任はもちろんですが、進路指導主事の尾形雅信教諭、副担任の佐浦志直講師も、生徒たちの進路決定を支えた立役者なのだとすることを最後につけ加えさせてください。



# 送 辞

敬愛・継承

愛される学校

信頼・未来

# 答 辞

ここに送辞と答辞の一部を抜粋して紹介します。卒業生とその保護者の皆さんには、あらためて式の雰囲気を味わっていただけるのではないかと思います。また、その他の保護者・地域の皆さんには、本校の卒業式のイメージを楽しんでいただけるものと思いますが、どうでしょうか。

そして在校生には、いよいよ須賀川二中の屋台骨を支え、伝統と校風を継承するのだという決意を確認してほしいと願っています。

中体連も終わり、先輩方も部活動から進路に向けて軸足を移動し始めていた頃、後輩ができたばかりの私たちは、まだまだ未熟で一年生への教え方や接し方に悩んでいた時、先輩方が言ってくださいました。

「これから二中を守っていくのはあなたたちだから、もしも良かれと思って叱ったことが伝わらなくて後輩たちに嫌われるのなら、それはもうすぐ引退する私たちの役目。」

そうおっしゃった言葉どおり、先輩たちはきちんと話をして事を収め、**愛される学校**を守っていく心構えを教えてくださいました。

あの日ほど、自分たちに足りないものを思い知った日はありません。

あの日ほど、こういう先輩になりたいと思ったことはありません。(中 略)

先輩方の須賀川二中は私たちがしっかり受け継ぎ、つなぎます。これから困難にぶつかることがあっても先輩方なら「不撓不屈」の精神で乗り越えてゆけると信じています。先輩方、今日まで本当にありがとうございました。

皆様のこれからのStoryが冒険と幸せに満ちた物語でありますよう心から祈念して送辞といたします。

(送辞：2年 須田日菜子さん)

在校生のみなさん。今まで僕たちを支えてくれてありがとう。今、須賀川二中の伝統を皆さんに託します。みなさんなら「あいさつの二中」「歌声の二中」「We Love 二中」を継承し、みんなに**愛される学校**にしていくことができると信じています。須賀川二中の未来をみなさんの力で切り拓いていってください。

たくさんの思い出ができました。笑顔あふれる休み時間、友だちと歩いた帰り道、仲間がいた



からこそ何気ない日常までもが輝かしい思い出になりました。そして辛い時にはそばにいてくれた仲間がいました。苦しい時には手をさしのべ、背中を押してくれた仲間もいました。

どんな困難が立ちはだかっても仲間とともに乗り越えてきたのです。こんなすてきな仲間に出会えたこと、同じ時間をともにできたことは本当に幸せでした。

僕たちは、たとえ進む道は違って、この思い出がある限り、いつもつながっています。この素晴らしい思い出を胸にそれぞれの未来に向かって歩んでいきます。



(答辞：3年 星 智徳くん)